

「日・豪・ニュージーランド 深化するつながり」

資源・農産物貿易から文化・芸術・スポーツまで。日本とオーストラリア、ニュージーランドの関係は幅広く、深いものになりました。90周年を記念するこのシンポジウムでは、一般にはそれほど知られていない貴重な情報や話題も取り上げ、JANZならではの内容を心がけました。色々な角度から見た日・豪・NZをどうぞお楽しみください。(各講演のタイトルは暫定的なものです)

- ・主催代表者挨拶 「JANZの90年とこれから目指すもの」
公益社団法人 日・豪・ニュージーランド協会 (JANZ) 会長上田秀明

1 アジア太平洋の経済の行方は？



マニエル・パナジオトプロス

(豪日経済インテリジェンス代表取締役)

講師は日豪間の経済・ビジネスに関して20年以上かかわってきたコンサルタント、アドバイザー。日豪は戦後、強く深い経済関係を築いてきたが、最近では中国が存在感を増し、さらにアメリカもトランプ大統領が波乱要因になっている。この両大国のはざまで日・豪・NZはどう対応していくべきなのだろうか？

【豪日経済インテリジェンスは日豪関係専門のシンクタンク。日豪経済アウトルックカンファレンスを主催するほか、豪貿易投資促進庁(オーストレッド)、豪日交流基金の各種政策の立案にもかかわる。地域安全保障研究所フェロー、日豪ラウンドテーブル議長、日本貿易振興機構(ジェトロ)コンサルタント。2015年に日豪関係への貢献で日本の外務大臣表彰を受けた】

2 80年前の日系企業の姿は？ オーストラリアから来た記録



加藤丈夫 (国立公文書館館長)

オーストラリア公文書館が「日豪友好の証として寄贈したい」と2015年に提案した日系企業の記録が今年、引き渡しを完了した。1941年に接收されたもので文書箱にして3300箱という大量の情報。シドニー、メルボルンなどに駐在していた横浜正金銀行、三菱商事、三井物産など12社の帳簿、通信などの企業記録のほか、日本商工会議所、日本人会などの団体、また社員や家族の手紙、写真などの記録も含まれており、当時の生活ぶりもうかがえるという。今後の研究、分析が期待されている。

【元富士電機会長・取締役議長。日本経済団体連合会労使委員長、経済同友会教育問題委員長、企業年金連合会理事長、学校法人開成学園理事長・学園長などを歴任。編集者だった父親の伝記「漫画少年物語などの著書がある。2013年6月、独立行政法人国立公文書館館長に就任】

3 シドニー大学での40年を振り返る



松井朔子（シドニー大学名誉准教授）

1961年からシドニー大学文学部で教職に就き、2001年にシドニー大学日本学科名誉准教授になった。教え子にはブルース・ミラー元駐日大使やヒュー・クラーク・シドニー大学名誉教授、リース・モートン東京工業大学名誉教授など日本と縁の深いオーストラリア人が多い。日本語、日本文学、日本文化の教育と日豪関係への貢献を評価して2018年1月26日のオーストラリア・デーに Member of the Order of Australia を受賞、日本では2016年に瑞宝双光章を受賞。

【神戸女学院高等学校、甲南大学卒業後、シドニー大学留学、1961年から英文学の講義を始めた。以来2001年まで40年間、日本語、日本文学を教えた。教え子には外交官、その他の政府機関など、多方面にわたって活躍する人が多い。シドニー大学退職後は、甲南大学客員教授や関西学院大非常勤講師も務めるなど、日豪間を往復する】

4 原宿でNZクッキーを売り込む



ジェイソン・アレン（株式会社クッキータイム ジャパン代表）

クッキータイムはニュージーランドの人気ブランド。1983年にクイーンズタウンで第1号店を出店後、順調に店舗数を拡大し、2013年に海外第1号店として原宿に開店し、知る人ぞ知る人気店となっている。講師はJETプログラムで来日し、その後、社会人ラグビーチームの通訳、NZ産はちみつを輸入・販売するピービーズ、NZのカフェ、モジョコーヒーの日本進出を手掛けるなど、ビジネスにかかわってきた。

【JETプログラムとは海外の青年を招致し、地方自治体、小・中・高等学校で外国語教育などを行うことで草の根の国際化を目指す制度。講師は国際交流コーディネーターとして来日し、その後、約18年、日本に住み続けている。ラグビーチームの通訳の後、外国人選手を日本チームに斡旋する事業も立ち上げた。】

講演終了後、Q&A、フリートークの時間を設けます

以上